

## 令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

今回の結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

- ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

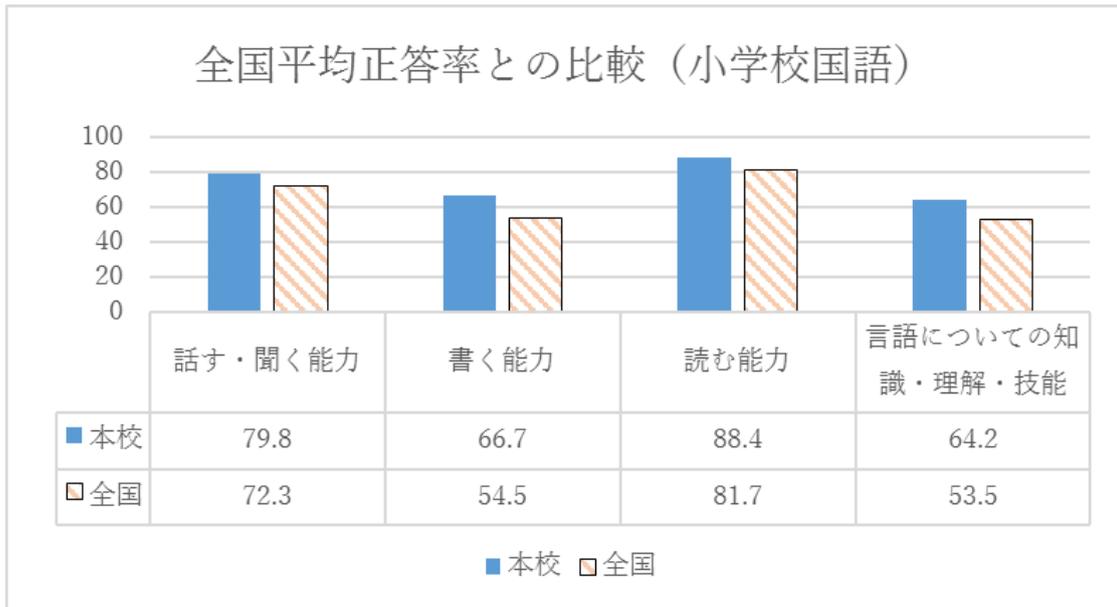
### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語

#### (1) 結果



4領域すべてにおいて全国平均正答率を10ポイント程度上回った。正答数の分布の割合を見ると正答数が多い児童と少ない児童の二極化の傾向が見られる。無回答率を見ると全問題で全国平均よりも低かった。

#### (2) 成果と課題

今回の調査における本校の児童の正答率は全ての問題に関して、全国平均正答率と同じか上回っていた。全国平均と比較して見たとき、正答率が高かった領域は「書くこと」であった。これは国語に限らず、日々の授業で自分の考えの根拠を明確にしながら表現する活動を数多く取り入れてきた成果であると言える。本校の課題としては、漢字の意味を考えて正しく書くことまた目的に応じて文章の内容を的確におさえることが挙げられる。

#### (3) 学力向上への取組み

##### 【学校では】

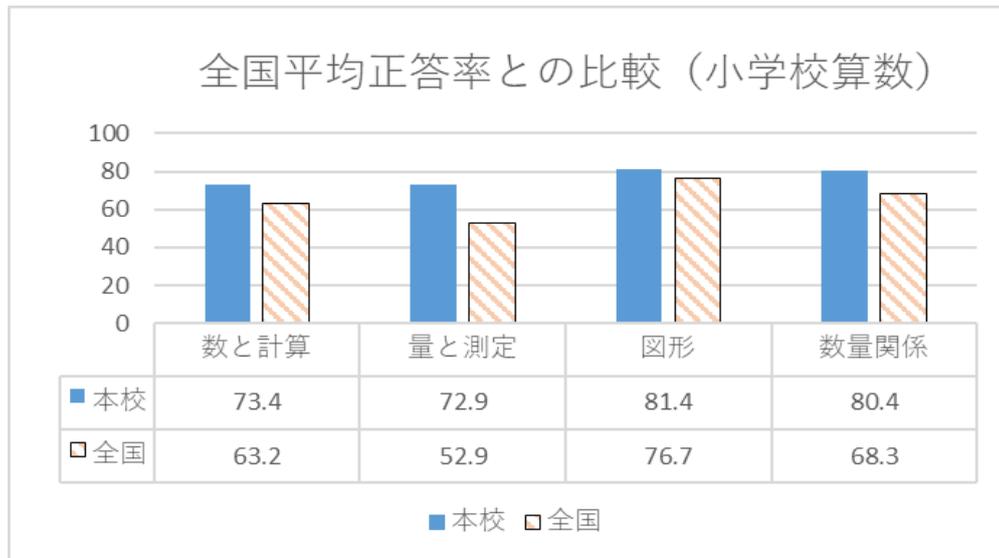
- 毎日の日記など、習った漢字を使う場を設定し、漢字の定着を図ります。
- 言葉の意味が分からない時、すぐに辞書を使うことのできる環境を整えます。
- 説明文を読み取る技能を高めるために、説明文の構成や接続語、キーワード等に注目させ、効果的に読む指導を工夫します。

##### 【家庭では】

- 辞書を引く環境を整えましょう。意味が分からない言葉や漢字を質問された時には辞書を引くように声をかけましょう。
- 宿題に取り組む時に習った漢字を使っているか見てみましょう。声かけを続けることで、習った漢字を使う習慣が身に付いていきます。

## 2 算数

### (1) 結果



全国平均をすべての領域で上回っている。「量と測定」では20ポイント「数と計算」「数量関係」も10ポイント以上である。問題形式ごとの全体の正答率を見ると選択肢から選ぶ問題が80%理由や方法を記述する問題は65%で考えを筋道立てて適切に記述をする問題の方がやや低い傾向が見られる。

### (2) 成果と課題

問題に対して、答えを求めるだけでなく、どのような方法で解決をしたのか、その過程を記述する問題に対しては、正答率86%と、全国平均正答率を大きく上回っている。算数の授業において、自分の考えの根拠を明確にしなが、表現する活動を数多く取り入れてきた成果であると言える。ただし、題意の理解の不足により、適切な記述に至らない問題もあり、課題が見られた。

### (3) 学力向上のための取組

#### 【学校では】

- 問題解決型学習をできるだけ多く取り入れていきます。この学習はまず問題に対して一人でよく考えその後、友達と話し合うことで考えを広げたり深めたりする学習形態です。友達の考えをよく聞いて、質問をしたり、自分の考え等と比較したりしながら、より良い解き方を導く経験を多く積むことで、物事を数学的に考えていく力をつけていくようにします。
- 「かく」「話す」「聞く」ことに関して、学年に応じためざす姿を具体的に掲げています。その姿に近づくように手立てを講じたり、どの程度到達しているのかを確認したりしています。例えば、「かく」ことに関しては、自分の考えを根拠をもってわかりやすくかける児童を育成するために、しっかりとかけている児童のノートを紹介して、その良さを価値づける等の手立てを講じていきます。

#### 【家庭では】

- お子さんが、宿題や自主学習(自学)をしているときに、今どのような学習をしているのか、理解できているのか、解くのにどのくらい時間がかかっているのか等、関心をもって見ていただきたいと思います。また、テストやドリル、プリント等にも目を通し、励ましや称賛の言葉をかけていきましょう。
- 生活場面で算数を使ってみてください。料理の時に食材の重さを量ると、量感が身に付きます。車で出かけるときに、「時速○kmで△分かかったから、距離は約□km」と計算してみましょう。「習った事が生活で使えておもしろいな」という経験を重ねることが、算数好きになる第一歩です。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1)結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	86.7	86.7
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	44.4	38.9
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	53.3	58.7
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか	53.3	50.1
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	33.3	30.1
学校のきまりを守っていますか。	64.4	46.7
人が困っているときは、進んで助けていますか。	55.6	40.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	93.3	85.0

「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に、生活リズムも概ねできているということがわかる。「まなざしカード」を継続・活用して、起床時刻を意識した生活に目を向けさせたい。規範意識について、肯定的な回答をした本校の児童は、全国平均よりも良好な結果が顕著に出ている。また、「困っている人を助ける」という思いやりを行動に移すことができる児童が多く、支持的風土の中で落ち着いて学習ができているといえる。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	42.2	33.1
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	8.9	12.4
「2時間以上、3時間より少ない」	17.8	16.9
「1時間以上、2時間より少ない」	44.4	36.8
「30分以上、1時間より少ない」	22.2	24.1
「30分より少ない」	4.4	7.6
「全くしない」	2.2	2.3

家庭学習については7割の児童が1時間以上学習しているがまだ1時間未満の児童が3割近くおり、中には全く家庭学習をしていない児童もいた。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引き等をもとに、家庭学習が習慣化するように指導をしていく。

##### (2)改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 毎日、「音読」「漢字の書き取り」「プリントやドリル」を基本に宿題を出します。自主学習（自学）に取り組むことで、自分自身に必要な学習を考えて自主的な学びにつなげます。手本になる自学ノートを掲示して定着を図ります。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨、ボランティアによる読み聞かせなど読書の機会を増やすための工夫を行っています。これからも継続し、常に手元に本がある環境を整えていきます。

###### 【ご家庭では】

- 現在取り組んでいただいている「まなざし週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着に努めましょう。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず褒めることで、意識が更に高まります。
- 「家庭学習の手引き」や「雄飛学園メソッド」（家庭学習のすすめ編）をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、学習時間や学習内容を自分で決めて学習できるように励ましましょう。
- ニュースや新聞などを話題にして、家族で考えを述べ合う機会をつくりましょう。社会の動きに興味をもつとともに、自分の考えを整理して話す力にもつながります。